

主題：キリストのパーソンは信者たちにとって何であるか

メッセージ 2

神としてのキリスト

聖書：ヨハネ 1:1-2, 4, 14, 29, 33, 51. 3:16. 4:14. 5:17-18. 10:30-33. 14:7-20. 15:1, 5, 26.
20:22, 28

I. キリストに関する観点が二つあります：

- A. 共観福音書、すなわち、マタイによる福音書、マルコによる福音書、ルカによる福音書にしたがった物質の観点は、人としてのキリストに関してです。
- B. ヨハネによる福音書にしたがった奥義的な観点は、神としてのキリストに関してです。

II. ヨハネによる福音書の内在的な啓示は、手順を経た三一の神としてのキリストです。聖書における他のどんな書もヨハネによる福音書ほど多く、明確に、内在的に三一の神を啓示していません——1:1-2. 5:17-18. 10:30-33. 14:9-11：

A. 永遠の言としてのキリストは神です—— 1:1：

- 1. トマスは復活したキリストに言いました「わたしの主、わたしの神！」—— 20:28。
- 2. キリストは万物の上にいまし、永遠にほめたたえられる神です——ローマ 9:5。
- 3. 彼は神全体であり、彼の中には、神たる方の全豊満が肉体のかたちをもって住んでいます——コロサイ 2:9。

B. その本質によれば、父、子、霊は一です。こういうわけで、本質上の三一の面があるのです。御子は御父の中に具体化され、その霊は御子の実際です——ヨハネ 14:16-18：

- 1. 御子はわたしたちに与えられましたが、彼の御名は永遠の父と呼ばれます——イザヤ 9:6。
- 2. 最後のアダムとしての御子は命を与える霊と成りました——I コリント 15:45 後半。
- 3. 主はその霊であり（II コリント 3:17）、主なる霊です（18節）。
- 4. 聖書におけるそのような御言葉は、父、子、霊が本質において一であるという強力な証拠です。

III. すべてを含む方としてのキリストは、手順を経た三一の神です——ヨハネ1:1, 4, 29, 33, 51. 2:19. 3:14, 29. 4:14. 6:35. 8:28, 58. 9:5. 10:9, 11. 11:25. 14:6：

A. ヨハネ第 1 章は、永遠の二つの区分を啓示しています。その二つの区分、すなわち時間の架け橋の間に、キリストが五つの段階において神として啓示されています：

- 1. 過去の永遠において、彼は自ら存在し永遠に存在する方の言、定義、説明、

表現として啓示されています—— 1-3 節。

2. 言は肉体と成り、肉体と成ることにおける神としてわたしたちの間に幕屋を張られました—— 14 節。
3. 神の小羊となることにおいて、彼は贖いにおける神として啓示されています—— 29 節。
4. はととしてのその霊をもって油塗られることによって、彼は造り変えにおける神として啓示されています—— 33 節。
5. 地を天に結び付けるはしごととして、彼は建造における神として啓示されています—— 51 節。
6. キリストについてのこれら五つの段階は、「独身の」神、肉体と成った神、贖う神、内住する神、合併された神としての、神についての進展する啓示を見せています。

B. ヨハネ第 3 章において、神はご自身を分与するためにひとり子をわたしたちに与えました—— 16 節。

1. 御子は御父の具体化です。御父が御子をわたしたちに与えた時、それは神がわたしたちにとって具体化であることにおいてご自身を与えることでした。
2. わたしたちは神の具体化である御子を受け入れるなら、永遠の命を受け入れます。これは、永遠の命が御子であり、三一の神の具体化であることを示します。永遠の命を受け入れることは、御子を神からの賜物である三一の神の具体化として受け入れることです。
3. 神は彼の三一においてご自身をわたしたちに与えます。彼はご自身を父、子、霊としてわたしたちに与えます。神が三一であるのは、ご自身をわたしたちに与えるためです。
4. 神のひとり子を世の人に与えることによって、神聖な命が人に分与されました。神が御子をわたしたちに与えたのは、わたしたちが御子を通して救われるためだけではありませんでした。それ以上に、彼がご自身をわたしたちの中へと分与することができるためでした。神の御子をわたしたちに与えることは、神聖な分与の事柄です。

C. ヨハネ第 4 章で、キリストは水を与えます。その水は源泉となって、湧き上がって、永遠の命へと至ります—— 14 節：

1. この節は、流れる三一の神の三つの段階を啓示しています。御父は源泉であり、御子は泉であり、その霊は流れる川です。さらに、彼らはみな、新エルサレムをその永遠の目標としています。
2. ここの「永遠の命」は、神聖な命の総合計を指しています。神聖な命は、全宇宙においてただ一つの総合計、すなわち、新エルサレムを持ちます。
3. 「へと至る」と訳されたギリシャ語の前置詞は、意味が豊かです。ここでは、目的地について語っています。永遠の命は、流れる三一の神の目的地です。新エルサレムは、神聖な永遠の命の総合計です。こういうわけで、「永遠の命へと至る」は、新エルサレムへと至るを意味します。

4. 流れる三一の神は、ヨハネの福音書と啓示録のかぎです。
- D. ヨハネ第 15 章で、ぶどうの木としてのキリストは、三一の神の有機体です—— 15:1, 5, 26 :
1. 第 15 章における神の啓示は、意味深く、深遠で、すべてを含んでいます。父なる神であるすべて、持っているすべては、子なる神の中に集中し、具体化され、これらすべては霊なる神の中で実際化されます—— 1, 26 節。
 2. 今や、これらすべてはわたしたちの中へとすでに造り込まれ、そして、わたしたちを通して、表現され、証しされます。父なる神は源また創始者であり、子なる神は中心また現れであり、霊なる神は実際また実際化であり、枝々はからだ、すなわち団体の表現です—— 5 節。
 3. わたしたちがぶどうの木の中に住むとき、手順を得て究極的に完成された神はご自身をわたしたちの中へと分与し、わたしたちは多くの実を結ぶことによって彼の栄光を表現します—— 8 節。
 4. その結果は、手順を得て旧教的に完成された三一の神と、彼の再生され、造り変えられ、同形化され、栄光化された選民との、神聖で人に属する構成であり、それは手順を得て究極的に完成された三一の神の有機体です—— 14:7-20。
- E. ヨハネ第 20 章で、キリストは復活において弟子たちの中に聖霊を息吹き込まれました—— 22 節 :
1. キリストは復活において、命を与える霊と成りました—— I コリント 15:45 後半。II コリント 3:17。
 2. 霊なるキリストであるその霊は、手順を得て究極的に完成された三一の神です。
 3. 御子の中へと信じることは、御子を受け入れることです (ヨハネ 1:12)。わたしたちが御子を受け入れるのは、御子が死と復活を通してその霊と成ったからです—— I コリント 15:45 後半。
 4. ヨハネ第 1 章 12 節の御子を受け入れることと、第 20 章 22 節のその霊を受け入れることは、二つの受け入れることではありません。御子を受け入れることは、その霊を受け入れることです。なぜなら、御子は今日その霊であるからです—— II コリント 3:17。
 5. わたしたちが御子を受け入れるとき、わたしたちは御父も受け入れます—— I ヨハネ 2:23. ヨハネ 10:30. 14:11。
 6. ヨハネによる福音書の初めで言葉であったキリストは、その霊、手順を得て究極的に完成された三一の神となりました。それはヨハネによる福音書の終わり、ご自身を信者たちの中へと分与して、彼を表現し、彼の栄光を現すためでした—— 1:1, 4. 20:22。